

令和7年度 第1回 麻績村総合教育会議 議事録

1. 日時 令和7年5月2日(金) 午前9時30分から午前10時30分

2. 場所 麻績村地域交流センター第3・4研修室

3. 出席者

(構成員)

麻績村長

塚原 勝幸

教育委員会

教育長

加瀬 浩明

教育長職務代理者

小山 正文

委員

坂口 曜子

委員

小松 小百合

委員

高野 羊子

(構成員以外の出席者)

麻績保育園長

塚原 京子

麻績小学校長

尾台 弘枝

筑北中学校長

大鷹 宏彰

事務局職員 3名

傍聴者 0名

(会議開会 午前9時30分)

1. 開会

○加瀬教育長

皆さんおはようございます。令和7年度第1回麻績村総合教育会議を開催します。どうぞよろしくお願いいたします。

2. あいさつ

○塚原村長

おはようございます。大地のぬくもりを感じる農作業等が本格的になってきた今日この頃でございます。教育委員の皆様方、そして園長、先生方におかれましては大変お忙しいところ総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。皆様におかれましては教育振興に向けて、常日頃ご尽力いただいていることに感謝申し上げるところでございます。

新型コロナウイルスにつきましても感染が軽減されまして、学校の学習や行事等々が元

へ戻り、子どもたちもようやく活気が出てきたように思われます。

教育環境につきましては、施設およびソフト面の充実について、逐次村としては整備をする中で学習しやすい環境整備を進めているところでございます。

令和7年度についても園や学校の要望に応じて、施設整備や教材等の充実に向けて限られた予算ではありますが出来る限り予算化させていただいております。

保小中の一貫教育の推進に向けては、連携をしっかりといただきながら推進に努めていることに感謝申し上げます。小1プロブレムや中1ギャップと言われ、学習意欲の低下についても一貫教育の推進の中で、ますますステップアップしていただければと思います。

一貫教育といいましても幅が広くて、学校を一つにすれば一貫教育なのか。交流さえすれば一貫教育なのか。全国的にはカリキュラム自体を変えてしまうところもあります。6・3制を5・4制に変える取り組みをしているところもございます。なおかつ私立の学校では保小中高大まで一貫して子どもを育成し、年代に応じて学力向上に努めているということもございます。

村としては、保育園から小学校へ、小学校から中学校と変わる中で、学校へ行きたくないという子どもたちも取り込む中で、皆そろって進級し、なおかつ卒業できる一貫教育を推進していただければと思います。

デジタル社会、グローバル社会の中で、将来世の中に出ていく子どもたちのために ICT 教育の推進につきましてはしっかりとお願いします。機材等につきまして村としてもできる限り対応していきたいと思っております。

小さいうちからデジタル機器を使って遊ぶという中で、しっかりとデジタル化に向かっているわけではありますが、果たして心まで育っているのか一番の問題点であります。学校に於きましても豊かな心を育てていただければと思います。

今年度より、地域機関との連携、共同によりまして、子育て世帯を一体的に支援することができるとも家庭センターを教育委員会に設置いたしました。課、室という形ではありませんが、子育てにおける問題の相談について、窓口の一本化を図るとともに、課題に対して相対的に支援できる体制づくりを行いました。子どもたちの悩み、子育てする親の悩みに対して対応を図りたいと思っております。

社会教育の部分につきましては、麻績村の自然を活用して、のびのびと地域の文化、歴史、自然を満喫できるように、おみっこ元気くらぶにおいては信州大学教育学部の学生の主体的な計画により実施させていただきました。ウォークラリーにおいては郷土の歴史文化豊かな自然を知っていただきました。昨年はキャンプも1泊2日でできました。また通学合宿についても実施し、学年を越えた相互の交流の中で、責任感と自立心を養うことができるのではないかということで実施しております。

いずれにしても将来を担う麻績村の子どもの育成において、郷土の自然、郷土の歴史文化をしっかり身につけていただきたいと思います。子どもたちは、いったん地域を出ていく時期がございます。麻績村の思い出と村に対する誇りをもって、将来的にまた麻績村へ戻ろうかと思う子どもたちが出てくれば有難いと思います。今年度も充実した活動に取り組んでいただければと思います。

子どもたちが少ないという部分につきましては、現在 2,386 人の人口でございますが、2050 年には 1,651 人との予測が出ております。減少をどれだけ緩やかにし、一人でも二人でも多くの人口にしていくか村として大きな課題であります。皆様のご意見をいただく中で課題解決に努めていきたいと思っています。

学校に於かれましては、麻績村を支える子どもたちですが、心豊かに逞しく元気に明るい子どもに育てていただきたいと思います。子どもの育成は重点事項でございます。教育環境の充実に向けてご協力ご支援賜ますようお願い申し上げます。簡単ではございますが会議の開会に先立ちましてご挨拶させていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

○加瀬教育長

皆様方から何かあればお願いします。

○坂口委員

こども家庭センターについてお願いします。ファミリーサポートと病後児保育を希望します。私も含め保護者から多くの声があります。どうして麻績村ではできないのかと思っています。病状が良くなっても、咳が出ていると保育園には出せません。子どもは長引きますし、兄弟がいれば尚更長引いてしまいます。そうすると働きにも出られません。村で立ち上げていただいて、働いている保護者のサポートをしていただければと思います。子育てには困るところもたくさんあります。同居している祖父母に頼めるとも限りません。実家に頼ることもできない人は大勢います。このような事業があると子育てしやすくなります。麻績村で子育てをやっているのかなという気持ちになると思います。

住宅地の斡旋をお願いします。本町の住宅に住んでいる方々から、子どもが増えると狭いとか、新たな住宅を建てたいと思っても難しいとのこと。若い方が地元の方と土地交渉をするのは難しいです。斡旋があれば住み着く人が増えてくるかもしれません。

○塚原村長

ファミリーサポートと病後児保育について大変難しい部分があります。責任の関知が一番大切なことと、そのようなシステムを設定するとなると、それなりの人材を備えなければなりません。需要が毎日あるかと言えばそうではありません。小さな市町村においてはなかなかできない現状にあります。国等でも子育てに対する支援が行われていますので、いずれは逐次整備されてくるかと思っています。

学校等において支援を要する子どもたちの対応についても、地域の看護師さんをお願い

しても難しい状況です。松本等の看護師さんに委託をして対応しています。

住宅については、造成をしても購入していただけるか否かは難しい所です。天王住宅団地については最終的には売れ残ってしまいました。そこで若者定住住宅を建てて、住んでいただいています。空き家活用については、昨年村内全域を調べて 238 軒の空き家がございます。移住定住者の活用に向けて取り組んでいます。

いずれにしても、そのような声があることは踏まえておりますので、定住に向けていくらかでも推進できればと考えております。

○高野委員

病後児保育とファミリーサポートについては、二十年ほど前から提案されてきたかと思います。しかしながら進展がないことを汲んでほしいです。課題はあるかと思いますが、保護者の声を少しでも聴いていただける行政であってほしいです。

○塚原村長

長年の経過の中で何が変わったのか皆様に見ていただきたいです。子どもを育てるうえでの負担軽減は我々が子育てをしたころと比べると、ものすごくされている気がします。高等学校も無償化ということが言われています。保小中の給食費はすでに無償化になっています。尚且つ児童手当等についても充実が図られています。そういった意味ではかなり充実してきたかなという気がしています。

子育てしている保護者の方々の声の中から、一つでも二つでも行政として進められればと思います。進める中で、麻績で子育てをしてみようという方が増えてくればと思います。地道に課題解決に取り組んでいきます。地域の方のご意見等も村としても検討しながら進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

3. 協議内容

① 麻績村教育大綱について

- ・教育大綱は総合教育会議において毎年見直し、必要であれば改定が可能

○加瀬教育長

それでは協議事項に入ります。麻績村教育大綱についてです。昨年のこの総合教育会議において麻績村の第7次振興計画を教育大綱にしていくということで決定をさせていただきました。進めてまいりました。教育大綱自体は総合教育会議において見直しをすることができます。必要であれば改定することが可能であるということになっております。これをベースとして進めてきているわけですが、それぞれご意見をいただければと思っていますところでもあります。基本的には、この内容は学校教育、それから生涯学習、こちらの社会教育的な部分のこと、それと青少年のキャリア教育、麻績村の文化や歴史についてのこと、そして生涯スポーツという形でそれぞれのところに分けて作成をされています。

一貫教育の中で、施設を一緒にすることはまだ難しいだろうと思われます。教職員が同じ歩調が大事だということで、先生方の研修や合同職員会を重点的に進めてきたところで

あります。先生方で一緒に集まっていたり、行事を合わせていただいたり、このようなことを一年間取り組んでまいりました。このような活動の中でよかったのが、中学生がリーダーシップを取りながら活躍していました。

○小松委員

大綱の中に、保小中一貫ということ地域という言葉が入っています。今後ますます地域で支えていくことが重要になってきます。言葉だけではなくしっかり取り組んで充実していただければと思います。以前小学校には昔遊びの会がありました。頻繁に小学校に出入りしていました。あの活動がとても良かったと思います。子どもたちにも良い影響があったのではないかと思います。

○大鷹校長

中学校ではいろいろな教科の先生が必要です。指定された人数だけでは回りません。加えて確保することさえ難しいこともあります。にもかかわらず、これだけ先生がそろっていることに感謝であります。兼務の先生方もいらっしゃいますが、兼務の先生は小中両方分かっているので小中一貫の良さを感じています。一つのクラスに副担任の先生が複数名います。その子を見る色々な角度の見方があり、褒めたり、認めたり、力を引き延ばしたりできます。子に寄り添いという理念をもって取り組んでいければと思います。また、小中合同での授業研究会も行い、志を一つにしながら進められたらと思います。

○尾台校長

小学校でもかなり手厚く支援の先生に入っていていただいております。14～5人の教室に必ず2～3人の先生を配置していただいております。いろいろな教室を支援の先生には回っていただいているので、俯瞰して子どもたちの様子を見てくださっております。心豊かに逞しくという村が大切にしているキャッチフレーズに向けて、それぞれの先生方のアプローチの仕方は様々ですが全体に共有しながら進めていきたいと思います。

○塚原園長

昨年あたりからまた地域の方との交流ができるようになりました。今年度の保育園のねらいは、できるだけ地域の方とのふれあいを大切にしていくことです。保小中の交流をさらに深めていきたいと思います。みんなで子どもたちを育てていきたいと思います。

4. 意見交換

○加瀬教育長

ありがとうございます。それでは意見交換に進みたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。

○坂口委員

小学校と中学校に支援の先生を多く配置していることを保護者は知らないと思います。それだけやってもらっている感覚がないかもしれません。お便りを見ただけでは、これだけの先生が何をしているのかわかりませんでした。もう少し広報をすることで保護者への理解が深まると思います。これだけのことをやっているのに伝わらないことがもったいないと感じました。手厚い教育をしてもらっていることをいろいろな人に伝わってほしいです。

○高野委員

振り返ってみると麻績村の教育は充実していると思います。麻績村が子育てを支えてくださったことを実感しています。なぜなら、大きな自治体の教育環境の話を聞くと「なかなかそこまで手が回らないよ」ということを多く聞きます。しかし、保護者に行ってみると「他の自治体はやっているのに」という物差しで見えてしまいます。これだけやっていますという広報は大事ですが、職員に任せるのも大変だと思います。自分たちで発信していくことが必要なかなとも思います。例えば、各月で教育委員会のお知らせを出せるようにお手伝いしたいと考えます。

○小山職務代理

皆さんの話を聞くと各学校や各関係者の努力によって、保小中一貫教育も軌道に乗ってきているのかなとも感じます。小中が物理的に一体となっている学校などの視察等もしながらお互いに勉強して進められたらと思います。

5. その他

○加瀬教育長

その他、皆様から何かございますか。ありがとうございました。

6. 閉会

○加瀬教育長

それでは以上をもちまして、令和7年度第1回の麻績村総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(会議閉会 午前10時30分)